

知識を力に変え、自分で選ぶために

これからの時代を生きる中学生にとって、知識はとても大切なものです。学校で学ぶ教科の内容、本やニュースから得る情報、日々の生活の中で知る社会の仕組み、それらはすべて、世界を理解するための土台になります。知識があるからこそ、知らないことに出会ったときに考えることができ、他の人の意見を理解し、自分の考えを言葉にすることができます。知識は人生を支える大事な「材料」であり、未来への可能性を広げるものです。

一方で、今の社会は、ただ知識をたくさんもっているだけでは生きにくい時代でもあります。インターネットやSNS、AIの発達によって、情報はいつでも、だれでも、簡単に手に入るようになりました。しかし、その中には正しい情報だけでなく、間違っただけの情報、誤解を生む情報、だれかを傷つける情報も混ざっています。だからこそ大切になるのが、「どう考えるか」という力です。目にした情報をそのまま信じるのではなく、「本当だろうか」「別の見方はないだろうか」「自分はどう思うだろう」と立ち止まって考える姿勢が必要です。

大人は中学生に対して、「危ないからやめなさい」「失敗するから近づかないほうがいい」と言うことがあります。命や安全を守るために必要な注意は、もちろん大切です。しかし、怖がらせることだけでは、人は自分で判断する力を身に付けることができません。大切なのは、すべてを禁止することではなく、自分で選ぶ力を育てることです。情報をどう受け取り、どう使うのか。人とどう関わり、どんな行動をとるのか。その一つ一つを、自分の頭で考え、判断できるようになることが、これからの社会を生きる力になります。

選択には、うまくいくこともあれば、失敗することもあります。迷うことや、間違えることもあるでしょう。でも、それは決して悪いことではありません。失敗したときこそ、「なぜうまくいかなかったのか」「次はどうすればいいのか」と考えることで、人は成長します。だれかに言われた通りに動くだけでは、その力は身に付きません。考え、選び、振り返る。その積み重ねが、自分自身をつくっていきます。

知識は大切な道具であり、考え方は進む方向を決める力です。どちらか一方だけではなく、その両方を身に付けることが重要です。知識を集め、それをもとに考え、自分で選ぶ取る。その力を少しずつ育てながら、自分の人生を自分の手で切り開いていってほしいと思います。